



第 6 号

昭和49年2月1日発行

豊中・サンマテオ
姉妹都市協会

事務局 豊中市企画部

企 画 課

Tel (854)1121



閱覧用

第2回高校英語弁論大会開かる！

前列(入賞者)左より、5位田村安都子(被昇天高)、3位生田洋子(梅花高)、
優勝滝口由起(宝塚高)、2位松田啓子(豊中高)、4位小出樹美(梅花高)、後段
左より、島岡企画部長、市村会長、下村助役、ミセスサカモト、宮城、伊藤、
中道、川合各審査員 (敬称略)

姉妹都市提携10周年記念親善訪問団来豊!

早いもので、昭和38年10月8日に、我が豊中市と米国サンマテオ市が、姉妹都市の契を結んで、丁度去る10月8日で、10周年になりました。

かねてより、サンマテオ市の姉妹都市協会及び、サンマテオ市当局は、この機会に親善訪問団を派遣せんものと計画をたてて、当初は30~40名の団員を派遣する予定でした。

ところが、出発直前になって、取消し者が続出し、(日本のインフレが、その一因ともいわれる)結局は、サ市姉妹都市協会日本委員会会長エルマーS. アンディ・アンダーソン夫妻と、同役員のジム中田夫妻の計4名になってしまいました。

しかし、我が協会は、豊中市と協力し、歓迎委員会を設立し、10周年記念行事とあわせて、その歓迎のプランを組んだのであります。一行は、10月7日に豊中入りし、アンダーソン夫妻は、ホテルアイボリーにその宿を定めました。そして、其の日は宿で休養し、翌8日(月)は、歓迎委員である阪本保民生部長と企画課員の案内で、午前中は、東丘小学校と第8中学校を訪問しました。



8 中生と交歓する一行

特に第8中学校では、生徒が英語で歓迎のあいさつを行ないましたが、一行は非常に上手であると誉めていました。

午後は、ニュータウンを見学し、ついで、秋の服部緑地を楽しみました。

—10月9日—

この日は、公式訪問日という事で、一行は午前10時に市役所を公式訪問し、竹内市長、幡本利一郎議長、市村善次姉妹都市協会会長、下村助役等と、会談しました。



市を公式訪問した訪問団

席上、サンマテオ市から豊中市へ、バラと日本庭園をアレンジしたカラー写真のパネルが贈られ、豊中市からも記念品が贈呈されました。



メッセージを述べるアンダーソン団長

そのあと、アンダーソン氏がサンマテオ市の老人クラブの会長であった関係で、豊中市内の老人クラブの代表と交歓しました。

午後からは、ジム中田氏及びアンダーソン氏がサンマテオ市のライオンズクラブ員でもあるので、市内の3つのライオンズクラブが商工会議所で、合同歓迎会を開きました。

そのあと、市立図書館を訪れました。ここでは、10月初めより10周年記念行事の一環として、サンマテオ展が開催されており、一行は熱心にこれを見学しました。

又、一行にアンダーソン女史(今回訪れた婦人とは別人)が託した本一冊が、寄贈されました。一行は、新設の図書館の内容に深い興味を示し、熱心に質問していました。

夜は、姉妹都市協会主催で、都市提携10周年記念祝典が市民会館大集会室で開かれ、一行が招かれました。



万雷の拍手に迎えられて入場

会場には、市村会長、竹内市長、幡本利一郎議長、西村豊副議長、下村助役等、協会及び市の幹部ならびに会員が約70名出席し、盛大に10周年記念を祝いました。

又、遠来の来豊団を慰める為に、市の職員バンドの演奏や、三津栄会の有志による民謡が披露されました。



大盛況の10周年記念祝典

—10月10日(体育の日)—

この日は、体育の日でもあり、豊中市教育委員会が、こ

れにふさわしいスケジュールを組みました。

午前中は、桜井谷小学校で開かれていた桜井谷公民分館の運動会に参加し、各自治会による応援合戦を審査したり、玉入れ競技に興じたりしました。



玉入れに興じる一行

午後は、市立体育館に赴きました。折から、婦人団体の盆踊りが行なわれており、一行はその輪にとけこんで、踊りました。そのあと、ママさんチームなどによるバレーの試合を観覧しました。

—10月11日—

この日は、朝から「しょうじ幼稚園」を訪れました。ここでは、園児が大歓迎で、かわいい手で花束を贈呈しました。アンダーソン氏は牧師であり、その故か、特に子供が好きで、子供の遊ぶ姿に目を細めていました。

そのあと、市立婦人会館に赴き、村司悠峰先生の指導で、お茶と生花を楽しみました。午後は、豊中市婦人団体連絡協議会会長谷口ふみ子さんをはじめ市内各婦人団体の幹部と、婦人問題について意見をかわしました。

翌12日、13日は、各氏共、知人と交歓したり、ショッピングを楽しんだりして過し、10月14日朝大阪空港より離豊しました。

以上のように、来豊団の人数こそ少なかったのですが、最近届いた報告によりますと、アンダーソン氏は、滞豊中の様子を詳しくサンマテオ市当局

及びサ市姉妹都市協会に報告した、とあり、ために両市の友好はますます深まったと言えるのであります。

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

第2回高校英語弁論大会

昨年(昭和47年)の第1回大会が好評であったので、本年もひきつづき、第2回弁論大会を企画した。事務局としては、この大会が高校教諭、生徒、父兄の間で、注目されて来ており、又、大阪府の北摂地区での唯一の公的弁論大会として評価を高めつつある事実、大いにはげまされているのである。昨年は、始めてのこととして、出場者をつるのに苦勞をしたのであるが、今回は、各高校の英語担当教諭、市内民間英語教育機関の積局的な協力により、締切りの10日前には、すでに15名の応募者があった。そして、最終的には、出場者は次の様になった。

梅花学園高校	9名
府立豊中高校	3名
被昇学園高校	2名
県立宝塚高校	1名

出場者15名は全て女子高校生であった。昨年の第1回大会でも男子生徒は1名にすぎなかった事実があり、この点から考え

ると、大胆に言うと、英語のスピーチに関しては、女子生徒の方が自信を持っていると言えるのではないか。

昨年はチーフジャッジとして、大阪アメリカンセンターよりロバートペンダー博士が招聘されたが、今回は同センターよりミセス、ナンシー・サカモト女史が派遣された。



弁論に先立ち注意を与えるミセスサカモト

女史は、現在大阪アメリカンセンター、大阪教育大学附属中学校、大阪南Y M C Aの講師であり、大阪市主催の英語弁論大会を始め、有名弁論大会の審査員をつとめ、その

適確な審査で、つとに有名な人である。

又、他に第1回に引き継ぎ、審査員として、府立豊中高校教諭宮城弘善氏、大阪北Y M C A講師中道元三氏、豊中市教育研究所指導主事伊藤章氏、豊中市嘱託川合隆子氏を招聘したが、各氏共現在英語教育の第一線に携わっておら



応援に来られた先生、父兄、友人

れる気鋭の士ばかりである。

さて、大会は、昭和48年11月24日(土)午後2時より市民会館で開催された。会場には、父兄、友人、先生方が100人ほど応援に来られていた。

出題は、あらかじめ姉妹都市協会より「私の性格」「何故英語を学ぶか」「豊中市について」の3つのテーマが出されており、各自この中から1題を選び、自由英作して発表するのである。



熱弁を揮う出場者

出場者15名は、各自5分以内で熱心に弁論を行なったが、最終的に次の5名が入賞した。(敬称略)

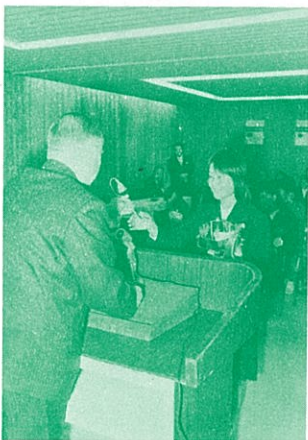
- 優勝 宝塚高校 2年 滝口 由起
- 第2位 豊中高校 1年 松田 啓子
- 第3位 梅花高校 3年 生田 洋子
- 第4位 // 1年 小出 樹美
- 第5位 被昇天高校 2年 田村安都子

優勝した滝口さんは、テーマ「何故英語を学ぶか」をえらび弁論を行なったが、発音、抑揚、スピード、内容、態度共素晴らしく、審査員全員一致で優勝と決定した。



順番を待つ出場者

そして、会長賞のカップ、サンマテオ市長よりのエルカミノベル(サンマテオ市長賞)、賞状等が贈られ、他の入賞者にもそれぞれ賞品や賞状が贈られた。一般的に見て、一昔前の高校レベルから見ると考えられない程の素晴らしい出来であり、日本の英語教育の進歩及び高校生生の英語のレベル向上に一同目を見張ったことである。



市村会長よりサンマテオ市長賞をうける滝口由起さん

「英語弁論大会の一審査員として」

豊中市立教育研究所
指導主事 伊藤 章

昭和48年11月24日(土)豊中市民会館において、豊中一
サンマテオ姉妹都市協会主催の高校英語弁論大会が開かれ、
15名の高校生が出場しました。今年は、全出場者が女子生
徒でした。昨年度と同様に、どの出場者も各校の代表だけ

あって大へん上手なので、殆んど得点差がつけられ
ない程でした。当弁論大会では、各出場者は、
平素倦まず撓まず練習したものをわずか数分の間
に発表し、審査員は、その間に出場者の発音、抑
揚、スピーチの内容、話す態度等を採点し、あと
で審査員全員が協議のうえ、順位を決定します。

このたびの弁論大会では、テーマとして、

“My own character”(私の性格)、

“What do I study English for?”(何故英語を学ぶか)

“Our city Toyonaka”(豊中市について)

の三つが与えられていましたが、7名が“My own
character”、7名が“What do I study English
for?”、1名が、“Our city Toyonaka”を選んでス
ピーチをしました。内容に関しては、語法に多少

の問題はあるとしても、いずれも高校生らしい抱負、体験、
身近な事柄についての感想を素直に論じている点で、好
感を持てました。

発音、抑揚の面では、高校生として申し分がないのに、
スピーチとして迫力が不足しているように思われるものが
若干あったのは、残念なことです。それは、練習不十分で
あったり、スピーチの論旨が不明瞭であったり、又、高校
生にとって不適當な言葉を使おうとしたために、却って思
うように発音できなくなったからではないでしょうか。従
って、スピーチが単調な朗読になってしまい、聴衆に感銘
を与えることが出来なかったのではないかと思います。

このたびの弁論大会で、5人の審査員が審査した結果、
第1位入賞と決定した滝口由起さんのスピーチ“What do
I study English for?”は、日常生活の中での自分の体験や
感想を聴衆に投げかけ、英語学習を通じて自己陶冶をする
にはどうすればよいか、これからの国際化社会、情報化社
会に生活していくには、英語をどのように役立てていくか
など、聴衆と共に自分自身も考えながら結論を導き出す方
法をとられました。発声練習が充分積まれているうえに、
ステージマナーにも自然さがあり、もの静かな話し方では



あるが、論旨が明確であるので、説得力のある立派なスピーチになったと思います。

- 表彰式の時、審査員が述べられた批評を列記しますと、
- 全般に昨年度よりレベルが上昇した。
 - スピーチの内容をよく記憶すること、そのためには、練習また練習することが大切である。
 - 聴衆に不安感や焦燥感を持たせないようにすること。そのためには、スピーチの速さ、区切り等に注意すること。
 - 論旨の根拠、理由を明確に述べて、聴衆を説得するようつとめること。
 - 高校生にとって適当な言葉、熟語を使うようにすること。
 - ジェスチャは無理に使わなくてよいが使うとすれば、無意識に、自然に出るジェスチャであること。
 - [l][r]、[a:] [ə:]、[f][h]、[b][v]などの発音に注意すること、文末の言葉の発音を明瞭にすること。
 - 英語を話すときは、英語で考えながら話すよう心がけること、そうすれば、イントネーション、リズムも自然によくなることを銘記すること。
 - 話しているとき、眼のつけ所に注意すること。一ヶ所ばかり見つめないで、聴衆ひとりひとりに対して話しかけるようにし、完全に理解してもらうようにつとめること。
 - スピーチの内容と顔の表情、(楽しい内容のときは楽しそうな表情、悲しいときは悲しそうな表情)とが一致するようにつとめること。

でありました。

最後に、今後出場を希望する方の為に、参考になることを記述してみましょう。アメリカの中学校、高等学校では、自分の考えを他人に理解させる技能を学習するために、public speaking という科目があります。日本の学校においても、国語、英語等生きた言葉を扱かう科目においては、書き言葉としての技能とともに、話し言葉としての技能も伸ばすように心がけるべきであると思います。立派なスピーチをするには、先ず自分が選んだテーマを基として論旨の明確な内容のスピーチ原稿を仕上げなければなりません。スピーチ原稿を自作して後、学校の英語科担当の先生か、信頼のおける英米人に眼を通してもらって、文法的間違いや不自然な表現を是正してもらった方がよいでしょう。スピーチの内容が確定しますと、自分の言葉として発声できる迄に十分練習しなければなりません。其の際、ストレスを置く言葉、単語間のリエイゾン、リズム、ピッチ、ポーズの取り方、声の大きさ、高さ、表情、姿勢等に注意して練習をしなければなりません。なお、自然に迷り出るジェスチャーはよいとして、不自然なジェスチャーによる演出は

差し控えた方がよいでしょう。

この様に、十分な練習を積んではじめて、本大会に於て、平素の練習と同じ位に落ち着いた調子で自己最高のスピーチができ、所期の成果を収めるようになるのです。

今後、一層精進して、次回の弁論大会に、より多くの男女生徒が会場されるよう望みます。

「英語弁論大会に優勝して」

宝塚高校 2年

滝口 由起

いま、優勝の賞状とカップ、それに青銅のエルカミノベルを前に、私は生涯忘れ得ない感激の昭和48年11月24日の事を思い出しています。

豊中一サンマテオ姉妹都市協会主催の第2回高校英語弁論大会に応募して、コンテスト当日までの10日間あまり、学校の勉強等の時間に追われる中で、ややもすると投げ出したくなりそうな時もありました。しかし、私はこれからも一層勉強しなくてはならないことを考える時、今ここで弱音は、はけないのです。私は、文字通り、練習に全力投球しました。

各自のスピーチは5分間。参加者全員がベストを尽くして、スピーチは終わりました。

審査の先生方が、別室で判定を下される間のなんと長かったことか。期待と不安感が入り交じるうちに、30分ほどして、優勝並びに入賞者の発表がありました。栄えある優勝に私自身の名前を耳にしたとき、嬉しさのあまり飛び上って跳ね回りたい衝動にかられました。

参加されながら惜くも入賞されなかった方々は、平素の実力を十分発揮できなかったのではないのでしょうか。今思い出しても、私は大変ラッキーだったと思います。なぜならば、私は当日スピーチの原稿文を家に置き忘れたまま出場するという冷や汗の出るようなミスをしながらか、落ち着いてスピーチ出来たからです。

高校生活も半ばを過ぎ、このような素晴らしい思い出を残せたことを大変嬉しく思っています。私は、この喜び、この栄誉を今後傷つけることのないように努力をしてゆくつもりです。

最後に、私達高校生に「英語弁論大会」という試練の場を与えて下さいました豊中市と豊中一サンマテオ姉妹都市協会の皆様、そして私を御指導下さいました先生方に深く感謝し、今後この事業がますます発展することを祈ります。

(昭和49年1月1日記)

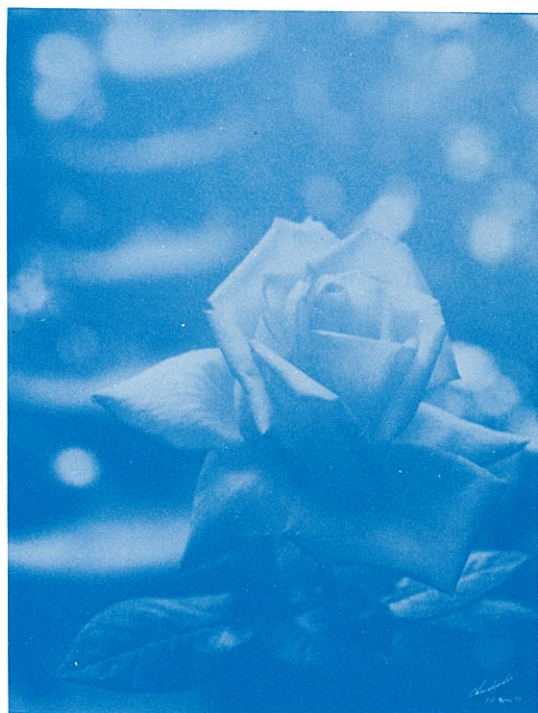
◆◆◆ 姉妹都市だより ◆◆◆

「石燈籠の火袋を送る」

先ごろ、サンマテオ市長及びサ市日本庭園管理人梅原三雄氏より、手紙があって、日本庭園内の石燈籠が心ない人により倒されて、石燈籠の火袋が毀されるという悪戯があり、復元するのに困っていると知らせて来ました。そこで事務局では、早速送られて来た図面に基き、市内の石材業者に作成を依頼し、元と同じものを送りました。

「パゴダとバラのカラー写真パネル贈らる」

10月7日来豊した親善訪問団のアンダーソン氏より、竹内市長へ「パゴダとバラ」のパネルが渡されました。これは、サンマテオ市長フロイド・ウエルチ氏より都市提携10周年記念として贈られたもので、正面に両市の市花バラを据え、バックに日本庭園のパゴダ(石塔)をあしらった素晴らしい作品であります。



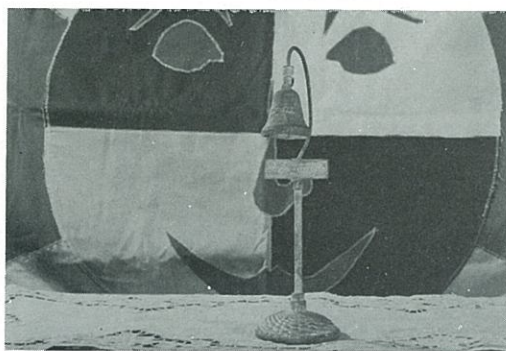
贈られたカラー写真パネル

「冊子サンマテオ市紹介特集を発行」

事務局では、都市提携10周年を記念してサンマテオ市紹介特集冊子を発行しました。これは、サ市のプロフィールを多くの写真により紹介したもので、事務局では、関係各方面に贈りました。サ市でも好評であるとも見え、寄贈依頼の手紙が、たびたび来ております。

「今年もエルカミノベル届く」

去る11月24日の第2回高校英語弁論大会優勝者へのサンマテオ市長賞として、第1回大会に引き続き、今年もエルカミノベルのレプリカが送られて来ました。これは、先に述べたように、宝塚高校の滝口由起さんが獲得しました。



サンマテオ市長賞のエルカミノベル

短 信

- 4月4日～5日 サ市姉妹都市協会役員ジム中田氏、日系人墓参団の一員として来日中のところ豊中市を訪問。
- 4月16日～18日 サ市姉妹都市協会員で米国で日本刀鑑定家として定評のあるジョン湯本氏二度目の来豊。氏は、刀剣鑑賞団及び切手研究会のメンバーの一員として、来日中であった。

二度目の来豊のジョン湯本氏



4月17日～5月7日 ミステラー女史来豊。8年前、第一回交換学生として渡米した下村隆子(現姓川合)さんが女史の家に滞在したものであり、女史初めての来豊であった。4月28日には、竹内市長と会談。その後、市庁舎内を視察。



左より 川合隆子さん、竹内市長、テラー女史、下村助役、島岡企画部長

6月21日～23日 ジム中田氏再度来豊。

7月30日 豊中ロータリクラブ交換学生、キャロル・ウイスナー嬢(前市長ウイスナー氏の令嬢)、キャシイ・マーシイ嬢、キャシイ・チャルマア嬢、サ市市長のメッセージを携えて来庁。竹内市長、下村助役と交歓。



市役所を訪れたウイスナー嬢他

8月17日 豊中南ライオンズクラブ交換学生デビー・リチャード嬢(米国)、フォデンフェンデン君(西独)来庁。竹内市長と面談。

8月16日～ パットキャンベル中尉夫妻及びその一女、東

南アジアでの軍務を終え、帰国の途中共来日、来豊。

10月7日～14日 姉妹都市提携10周年記念親善訪問団来豊。

10月11日 サ市姉妹都市協会書記ミス須藤及び友人ミセス・ロイス・マククロウの兩人、香港旅行の途中共来日。企画課員と京都ロイヤルホテルで、両市の都市提携事業について、懇談。

10月26日 サ市元企画部長 Harold・アトキンソン夫妻、船で世界旅行の途中神戸港へ立寄り、企画課員と交歓。

10月29日 8年前の第一回交換学生のケージ・ムラナガ君来日。日程の都合で市関係者と交歓できなかったが、彼の叔父より、宣敷くとの伝言があった。

11月20日～29日 市議山口信治氏の子息山口栄一氏(全日空勤務)サ市を訪問。ウエルチ市長、リー協会会長に、竹内市長のメッセージを手渡す。



編集後記

年々当協会の事業が伸長するにつれて、協会の財政面が苦しくなって来ておりました。本年の総会でも、このことが取り上げられ、結局会費を値上げするよりも、法人会員を増強せよとの事で、事務局では、会長、収入役などと共に、市内各有力企業に加入方をお願いに回ったのであります。誠に幸いな事に、40社という多数の企業が温い賛意を寄せられ新たに入会して載きました。この稿を借りまして厚くお礼申し上げます。

さて48年度は、10周年記念行事、来豊団受入れ等々、多忙な年でありましたが、両市の親善は大いに深まったものと考えております。今後共、温いご支援を賜りますようお願い申し上げます。

【会員募集】 個人会員 (入会金 500円) 学校・ (入会金 1,000円) 法人会員 (入会金 5,000円)
 (会費年額 1,000円) 団体会員 (会費年額 2,000円) (会費年額 10,000円)